

## 第40回 Pitch to the Minister懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

### 1. 開催日時・出席者等

○日時：令和元年5月7日(火)11:00~12:00

○場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ：エンジェル/ドローンファンドから見たテック系スタートアップとこれからのイノベーション・エコシステムについて

○招へい者：千葉 功太郎(ちば こうたろう) 個人投資家/慶應義塾大学SFC特別招聘教授/Drone Fund 代表パートナー

○出席者：平井国務大臣、幸田内閣府審議官、三輪政府CIO(政府)、柴崎参事官(IT)、宮武参事官(科技)、行松審議官(宇宙)、石井企画官(科技)、池田企画官(科技)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### 2. 千葉氏からの説明

○インターステラ社の前回のロケット打ち上げ失敗後、事故調査のために現地に行き、射程の俯瞰映像をドローンで撮影をして破片がどこに飛び散ったかを位置情報を測定した。また爆発後にドローンが赤外線カメラを搭載して、ハイスピードカメラが破損していないかどうか、もしまだ電源が生きているかどうかなどドローンで調査をした。

○個人の投資家としてベンチャーキャピタルに投資をしている。今の日本のベンチャースタートアップの環境はどんどん洗練されてきている。ベンチャーを支援者が近年増えてきたり、ベンチャーキャピタルがうまくサポートするようになってきている。

○自分が主催する「千葉道場」というベンチャーを支援するコミュニティのキャッチコピー、「Catch The Star まだ見ぬ幸せな未来を創造し、テクノロジーで世界の課題を解決する」がある。山の頂上を目指すのではなく、星をつかみにいくくらい高い目線で事業を起業すること。今あるちょっとした課題解決ではなく、未来のインフラ、デファクトスタンダードになるような社会の仕組み自体を作るような大きな目線を持ってほしい。

○ドローンファンドをはじめたきっかけはドローンを初めて操作してみて、ドローンは社会を変えるプラットフォームになると確信をもったから。初めは個人投資家としてドローンのスタートアップに投資をしていたが、限界を感じ辞めた時もあった。しかしその間、ドローンのスタートアップ企業が資金調達できなくなり、業界として成長が止まってしまった。自分が辞めてしまうことで日本のドローン産業がなくなってしまう危機感を感じてドローンファンドを立ち上げた。

○ドローンによる消費者への宅配、ドローンとロボットの連携による農作業の自動化、新しい空のインフラとなるエアモビリティによる移動など、ドローンによる空の移動革命がこれからはじまる。

○スタートアップや都市の成長は、経済成長に直結するのではないかと思う。東京は世界でも戦えるスタートアップ都市になれると信じている。都市を基盤にスタートアップを成長させるための環境を構築するためには、資金・人材・情報などが集まる場所、先端的なテクノロジーを実装する場所が必要となってくる。

### 3. 質疑応答・議論

○これからの社会のスタンダードとなるような起業について、日本はテクノロジー国家だとまだ海外からの印象がある。ソフトウェアだけでなくハードウェアも日本が蓄積してきた全てのテクノロジーを融合していくことがこれからの日本に必要なのではないかという議論があった。

○投資先をどのように探しているのかという質問に対して、ベンチャーがおこなっているピッチイベントの審査員

として呼ばれたときに、自分の気に入った企業に自らコンタクトを取って交渉し、投資をしているとの回答があった。

○シェアエコ関連のベンチャーがあまりうまくいっていないという印象があるがという意見に対して、シェアエコ関連企業が進むことによって駐車場、空き家など日本が直面している空きスペース問題を解決する鍵となるのではないかという議論があった。

○日本はいままで大都市から地方都市という空の移動経路が限定されていたが、地方都市から地方都市への空の移動はすごく不便であった。しかしながら、空の移動革命によって小型ジェットとドローンを活用することで、痴ほうから地方への移動が便利になるのではないかと議論があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)